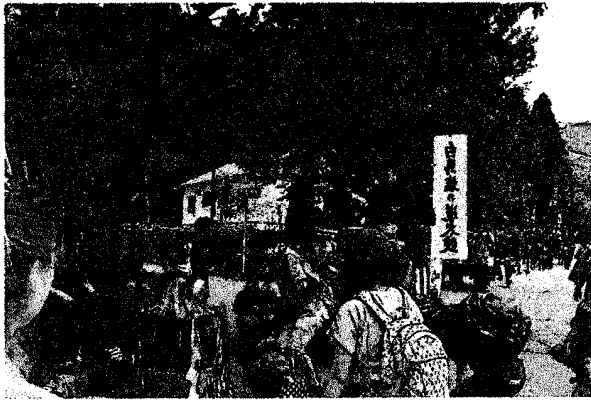


フィールド風

(現場)からの風

宮田守男



地域を練り歩くローカル色豊かなお祭り、あなたは見た事がありますか

機会があった。毎年塩島地籍から諏訪社まで、大勢の氏子にのぼりや山車・御神輿(みこし)などが練り歩き、神社では七道面(七尊面)の祭事や少女の皆さんの尾花踊等が奉納されるなど、ローカル色豊かなお祭りだ。松本領主からも、とりわけ大切にされてきた神社だと書われ、当時の松本領主がなつた参拝遺蹟を再現して

2時間かけて練り歩くのだが、最近参加者も少なくなり、従前の時間も要しないため、多くの休憩を取りながらの移動は、沿道で出迎える人たちの楽しい交流の場も多く作り出している。氏子でない参加者も多く、今年は海外の家族連れも参加、所々のスナック写真が求むる場所、私たちが日常あ

まの気にしていない場所も多い。のどかな田舎の風景が気に入ったように、楽しんで楽しまる印象に残る。道中のお神酒も手伝い、参加者の笑顔が広がる。なかなか日常会えない人との出会いが、お祭りの魅力なのだろう。今年には特に「塩の道太鼓」が大活躍。トラックの荷台の仮設舞台での道中の演

舞は、楽しいながらもな祭りを大いに盛り上げる。女性や子供の太鼓演奏は、地域を大いに活気づかせる。神社は、旧塩島村現在の塩島・立の間・連・青鬼・切久保と新田村の産土神で、創祀の事情や年代は明らかではないとの記述が「白馬の歩み 村誌・社会環境編上」にある。歴史的な背景を知りたくて他の記述を眺むと、村方論争の中に、この地域に関する記述があった。

身近な文化行事の中に、観光資源の可能性はある事に関心をもちませんか

私の住む森上区の推薦で、本年より白馬村交通安全協会の理事に就任。9月中旬に行われた白馬村切久保地籍にある霧降宮諏訪社(大林諏訪神社)の秋の祭典で交通整理する

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。

「立の間と塩島新田村の争い」が、歴史の争いである。特に慶安4年(1657)4月、塩島新田村が成立した時の村の領域に絡む争いは想像を超えたものだったのだ。その時々に、神社が果たした役割は格別なものだったのだ。だから、お互い仲良く協力して祭りを盛り上げようとの思いが伝わっている。